

沖縄タイムス 2013年7月25日(木)掲載

7月17日 那覇 YEG 地域活性観光円卓会議(トランジットモール円卓会議)紹介記事

※みらいファンド沖縄は、企画運営、司会・ファシリテーター派遣で協力しました

トランジットモールどう活性化?



那覇市国際通り商店街振興組合連合会の中西久治副理事長は、トランジットモールは6年半前、郊外の大型店舗に対抗するため、地元客の集客を目指して始めた」と振り返った。当時7割だった観光客向け店舗が現在は9割以上を占めるなど、街が変化してきていると説明した。

那覇市の比嘉勉なほまちなか振興課長は、市の調査で、マチグワー(市場)に行かない市民の割合が多数に上がったことにショックを受けたとし、「地元の人がある場所に、観光客も来る。地元客が来るようにないを生まみ出さなければならぬ」と話した。

JTB沖縄の観光開発プロデューサー、小宮啓明さんは、トランジットモールの在り方を協議した那覇商工会議所青年部主催の円卓会議17日、那覇市ぶんかテンプス館

国際通り 地元客に活路

商工会議所青年部 円卓で策探る

【那覇】那覇商工会議所青年部(仲田憲仁会長)は17日、国際通りで毎週日曜日に実施されているトランジットモールの活性化をテーマにした円卓会議を開いた。企業や行政、NPO、報道関係者や青年部メンバーが国際通りの可能性を語り、にぎわうためのアイデアを出し合った。

観光客が国際通りに来るのは明確な目的意識があるからではなく、航空券の安い午後や朝一番の便で帰るため、最終日や前日に市内に1泊することが理由の一つだと指摘。観光客が特別な体験をできる仕掛けや地元客向けの「訳あり市」を提案した。

切りや春夏秋冬のキャンペーン、県道なのだからオキナワンドリームを達成する舞台装置として貸し出してはどうか」と提案した。マンション開発業の仲田会長も、市安里のマンション52室が3カ月で完売したとし、国際通りの投資価値の高さを語った。

沖縄タイムスの高崎園子記者は「トランジットモールの到達点を明確にする必要があるのではないかとし、最終的に車の進入を制限して、ヨーロッパの都市で活用されているLRT(新型路面電車)の導入を提起した。」